

認定看護師B課程開講

NICUの新生児ケア

獨協医大は4月から、「新生児集中ケア認定看護師(B課程)」の教育課程を全国で初めて開講した。新生児集中治療室(NICU)に入院する新生児のケアや母子関係の支援、他の看護師への技術指導を担う人材を育成する。スタートとなる2023年度は全国から集まった看護師10人が受講。約1年間かけて新生児看護の学びを深める。

(東山聡志)

獨協医大が全国初

認定看護師は、日本看護協会がさまざまな分野で熟練した技術を備えた看護師を育成・認定する制度。B課程は従来のA課程に、呼吸器の管理や薬剤投与など「特定行為」の研修を加えた教育で、2020年度から始まった。感染管理や緩和ケアなど19分野あるが、新生児集中ケアの教育機関は設置されていなかった。

獨協医大では、看護学部

認定看護師教育機関としての認定証を手にする小西教授
11月3月下旬、壬生町北小林



日本新生児看護学会の理事も務める小西教授は「看護師が技能を身に付けることで、多くの人が救われる。教育機関がないのはもったいない」と考えた。NICUでは体重が1500g未満で産まれた「極低出生体重児」や、重い先天性の病気がある新生児らが入院する。環境の変化が脳神経の発達にも影響するため、触れるだけでも配慮

母子関係支援も習得へ

が求められる。状態を常に把握し、医師と意見を交わしながら処置を行う。

親への支援も重要な仕事の一つだ。近年は、経済不安など出産前から支援が必要な特定妊婦が増加傾向にある。障害が残ったり退院後も医療的ケアが必要だったりするケースもあり、動揺する親は少なくない。認定看護師は新生児の親とも向き合いながら、家族関係を整えたり虐待を防いだりしている。

小西教授は「寄り添いながら、親子が一つの家族になれるよう見守ることが重要」と説明する。

獨協医大の教育課程には2月、全国から25人が受験し、10人が合格した。4月11日に開講し、栄養や水分の管理方法や心肺蘇生の手法、家族形成支援の取り組みなどを学ぶほか、病院での実習もある。小西教授は「質の高い看護を実践し、周囲に指導できる人材を育てたい」と話している。